

## 第61期 決算のご報告

2018年4月1日から2019年3月31日まで

# 株主通信

### CONTENTS

- ① 株主の皆様へ
- ② 連結決算ハイライト
- ③ トピックス
- ⑤ 連結財務諸表
- ⑦ セグメント別概況
- ⑨ 会社の概要



株式会社 丸順

証券コード：3422

## 株主の皆様へ

## ご挨拶



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
 さて、このたび当社第61期決算（2018年4月1日から2019年3月31日まで）を終了いたしましたので、ご報告を申し上げます。  
 株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長 齊藤 浩

## 連結業績の概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では今後の通商問題や政策動向及び金融資本市場の変動等に留意する必要があるものの、自動車を中心とする耐久消費財の拡大に伴い個人消費が増加したほか、設備投資等も増加したことから着実に景気回復が続いております。欧州では、英国のEU離脱交渉や米中貿易摩擦等、政治・政策面の先行き不透明感があるものの、雇用・所得環境の改善により個人消費が底堅く推移し、景気は緩やかに回復しております。中国では、通商問題や過剰債務削減による資金調達難が投資の下押し要因となったほか、対米輸出品に対する追加関税の影響により、景気は緩やかに減速しております。日本では、中国経済の減速に伴い生産及び輸出が下振れしたものの、雇用・所得環境の改善により個人消費が持ち直したほか、人手不足を背景に賃金が上昇傾向であり雇用情勢は回復しております。

当社グループが属する自動車業界においては、タイでは、輸出向けが鈍化したものの、新車購入奨励策の制限終了による買い替え需要が膨らんだほか、政府の低所得者向けの景気刺激策が追い風となり新車販売台数は堅調に推移しております。中国では、電気自動車（EV）等の新エネルギー車は生産・販売ともに好調を維持しているものの、ガソリン車においては、自動車取得税の優遇政策の終了に加え、米中貿易摩擦の影響により、販売が減少しております。日本では、登録車については完成車両の検査をめぐる不正の影響により販売が落ち込んだものの、軽自動車の好調が底上げ要因となり、国内新車販売台数は順調に推移しております。

このような状況のもと、当社グループは、当連結会計年度を初年度とする中長期5か年計画をスタートさせ、競争力基盤の確立及び財務体質の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は50,168百万円（前年同期比0.2%減）、営業利益は4,369百万円（前年同期比6.8%増）、経常利益は3,617百万円（前年同期比22.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,300百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

なお、前連結会計年度より、株式会社ホンダ四輪販売丸順は連結範囲から除外されております。

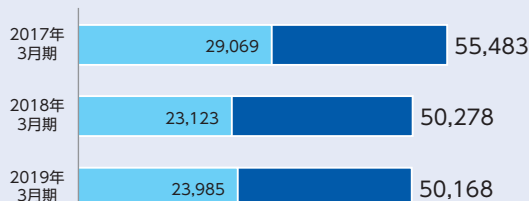
当社グループは、経営基盤の安定化を目指し、売上高営業利益率及び自己資本比率を主要な経営指標としており、中長期5か年計画最終年度となります2023年3月期において、売上高営業利益率9.5%、自己資本比率40.0%を目標値としております。当連結会計年度は売上高営業利益率8.7%、自己資本比率20.1%となり、目標値達成に向けて順調に推進しております。

# 連結決算ハイライト

## 売上高

50,168百万円 • 前年同期比 ↓

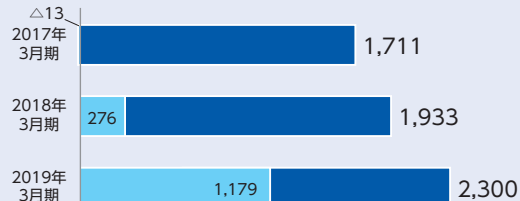
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益

2,300百万円 • 前年同期比 ↑

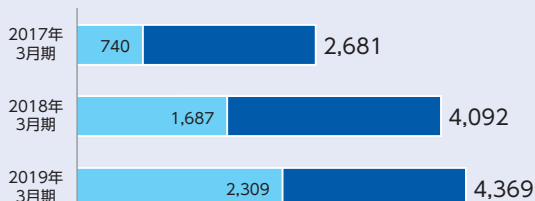
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



## 営業利益

4,369百万円 • 前年同期比 ↑

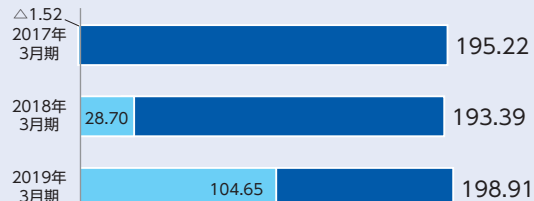
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



## 1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益

198.91円 • 前年同期比 ↑

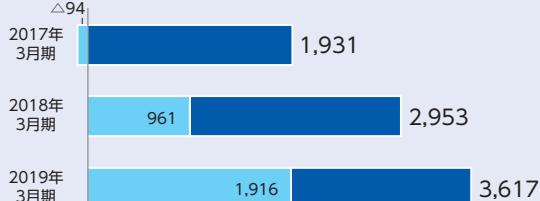
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 円)



## 経常利益

3,617百万円 • 前年同期比 ↑

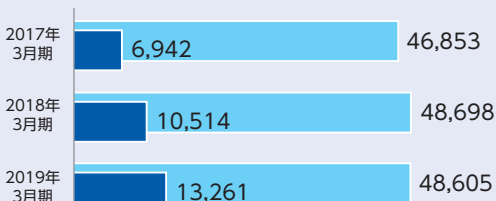
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



## 総資産・純資産

48,605百万円 • 13,261百万円

■ 総資産 ■ 純資産 (単位: 百万円)



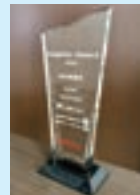
## トピックス

Topics  
1

## グループ各社がサプライヤー賞受賞

## ① 日本丸順 Supplier Award優良感謝賞受賞

日本丸順は、主要取引先である本田技研工業株式会社より、Supplier Award優良感謝賞(品質部門)を受賞いたしました。当社はこれまで開発・原価部門等で数回の受賞をしておりますが、品質部門を受賞したのは初めてのことであります。今後も技術を磨き、お客様が望む優れた製品・部品を提供することでQ(品質)・C(コスト)・D(搬入)競争力の強化を図ってまいります。



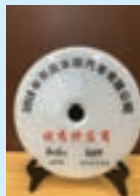
## ② 広州丸順社 総合優秀サプライヤー賞受賞

広州丸順社は、主要取引先である中国本田汽車有限公司より、2018年度総合優秀サプライヤー賞を受賞いたしました。「品質」、「搬入」及び「コスト」等の総合面で評価された結果であります。引き続き、重要サプライヤーとしての位置づけを維持できるよう、体質改善の取り組みを継続してまいります。



## ③ 武漢丸順社 優秀サプライヤー賞受賞

武漢丸順社は、主要取引先である東風本田汽車有限公司より、2018年度優秀サプライヤー賞を受賞いたしました。「品質」及び「搬入」の管理体制・体制の改善への取り組みの継続により、「コスト」競争力が上昇し、客先より総合的に評価された結果であります。世界的な自動車業界の変革に対しても、お客様から信頼され、必要とされ続ける企業を目指し、技術の進化及び深化を追求してまいります。

Topics  
2

## 日本丸順 NISSAN デイズ部品量産開始

日本丸順は、資本業務提携(以下、提携)を締結した東プレ株式会社(以下、東プレ)経由にて日産自動車株式会社(以下、NISSAN)から2019年3月末に発売されたデイズの部品の量産を開始いたしました。当該部品は、東プレとの提携後、初めて企画段階から関与した部品となっております。受注した部品については、キャビン周辺(客室周り)の骨格部品が多く、当社の得意分野である超高張力鋼板(スーパーハイテン)の加工技術を駆使することで、安全・燃費性能向上及びコスト削減等にご貢献し、開発力と高い生産性の両面で高い評価を頂いております。

なお、日本丸順では、NISSAN「デイズ」・HONDA「N-BOX」をはじめとする車体軽量化及び高剛性のニーズが高い軽自動車の部品を多く受注しております。今後も環境・安全面でのニーズは高まっていくことが予測されることから技術の蓄積及び向上を継続し、さらなる受注拡大に努めてまいります。



日産自動車株式会社「デイズ」



「デイズ」当社受注部品群

Topics  
3

## 広州丸順社 大型EVバッテリーケース量産開始

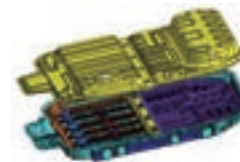
広州丸順社は、広汽本田汽車有限公司として初となる本格的な電気自動車（EV）VE-1のバッテリーケース及びカバーの量産を開始いたしました。これまで培ってきた金型技術やプレス技術を活用し、バッテリーケース及びカバー本体の大型プレス部品や980MPaの超高張力鋼板（スーパーハイテン）を使用した補強部品について、金型製作からプレス加工、溶接及び塗装までの全ての工程を現地で企画・段取り・生産をしております。

特に、溶接領域においては、1,000打点を超えるスポット溶接や10mを超えるアーク溶接を行うための工程設計及び治具設計等を広州丸順社で完結するなど現地における基盤技術の強化とスピード対応力を向上しております。

今後の中国市場においては、様々な環境規制に伴い、急速な電動化が進むと予測され、対象となる電動化関係部品の受注拡大を図ってまいります。



広汽本田汽車有限公司  
「電気自動車（VE-1）」



受注部品（バッテリーケース・カバー）

Topics  
4

## 丸順グループ新規受注部品

### ① 日本丸順 新規バッテリーモジュール構成部品受注

日本丸順は、車載用電池パックのバッテリーモジュール構成部品を新規受注いたしました。当該部品は、バッテリーモジュールを組み上げる際、バッテリーセルを締結するために必要な部品であり、高剛性・高精度な当社の超高張力鋼板（スーパーハイテン）加工技術と電動化部品に関するノウハウが活かされております。



バッテリーモジュール イメージ

### ② タイ・マルジュン社 電動化部品受注拡大

タイ・マルジュン社は、2019年夏にタイ国内で生産開始予定のアコードHEVのIPU（インテリジェントパワーユニット）関連部品を受注いたしました。当該部品は、プレスから溶接組付までを一貫してタイ・マルジュン社にて生産いたします。また、金型・治具等々の設備の現地調達化にも取組み、今後需要拡大が見込まれる東南アジア諸国における受注拡大にも対応してまいります。



「アコードHEV」受注IPU関連部品

### ③ 広州丸順社 VWサンルーフ部品受注

広州丸順社は、世界的なサンルーフメーカーであるWebasto社より、VW（フォルクスワーゲン）社向けサンルーフ部品を受注いたしました。VWグループへの部品納入は創業以来初めてとなります。中国市場においては欧州メーカーのシェアが高く、中国でのサンルーフ装着率が高いことから、今後もサンルーフ部品を継続受注できるよう努めてまいります。



受注部品イメージ（掲載画像は、現行量産中VEZELのサンルーフ部品）

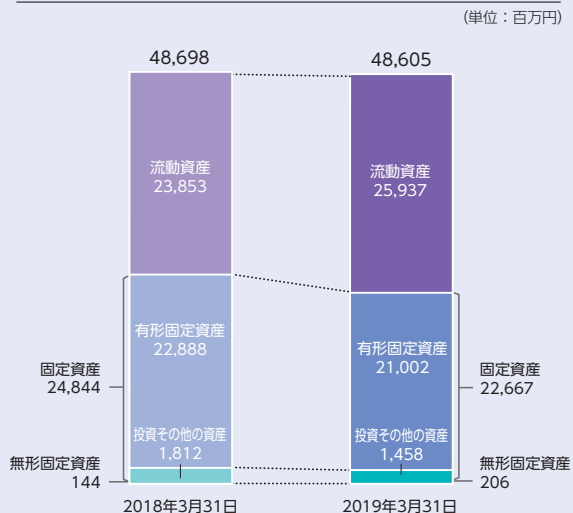


## 連結財務諸表

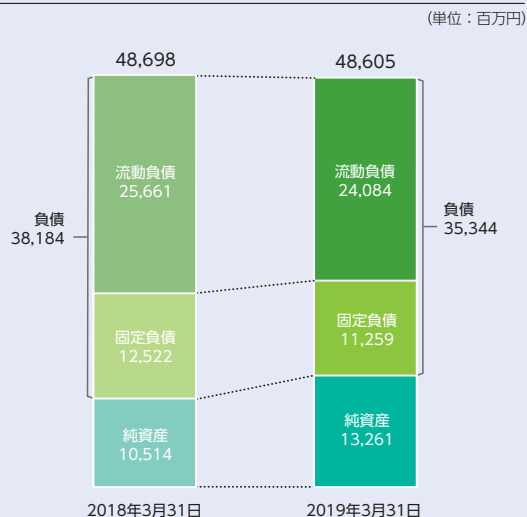
(単位：百万円)

## 連結貸借対照表(要旨)

## 資産の部



## 負債・純資産の部



《資産の部》内訳		2018年3月31日	2019年3月31日
流動資産	現金及び預金	8,664	9,578
	受取手形及び売掛金	11,026	11,808
	有価証券	-	200
	商品及び製品	339	363
	仕掛品	2,463	2,467
	原材料及び貯蔵品	742	777
	その他	710	802
	貸倒引当金	△94	△60
有形固定資産	建物及び構築物	5,426	4,666
	機械装置及び運搬具	5,059	5,277
	工具、器具及び備品	5,534	5,796
	土地	615	611
	リース資産	1,340	690
	建設仮勘定	4,911	3,959
無形固定資産	144	206	
その他の資産	投資有価証券	602	498
	退職給付に係る資産	185	174
	繰延税金資産	492	394
	その他	539	397
	貸倒引当金	△7	△7

(単位：百万円)

《負債・純資産の部》内訳		2018年3月31日	2019年3月31日
流動負債	支払手形及び買掛金	6,506	6,292
	短期借入金	14,599	13,213
	リース債務	403	281
	未払法人税等	268	201
	賞与引当金	129	131
	その他	3,752	3,965
固定負債	長期借入金	10,741	9,866
	リース債務	455	168
	退職給付に係る負債	967	1,072
	資産除去債務	149	152
	その他	207	0
株主資本	資本金	1,198	1,950
	資本剰余金	1,021	1,794
	利益剰余金	2,285	4,586
	自己株式	△0	△0
	その他の有価証券評価差額金	71	59
	為替換算調整勘定	2,024	1,416
	退職給付に係る調整累計額	△33	△48
	非支配株主持分	3,944	3,503

## 連結貸借対照表について

資産総額の減少要因は、現金及び預金914百万円の増加、受取手形及び売掛金781百万円の増加、建物及び構築物や建設仮勘定等の有形固定資産1,885百万円の減少等であります。負債総額の減少要因は、支払手形及び買掛金213百万円の減少、短期借入金1,386百万円の減少、リース債務410百万円の減少、長期借入金874百万円の減少等であります。純資産の増加要因は、資本金752百万円の増加、資本剰余金772百万円の増加、利益剰余金2,300百万円の増加、為替換算調整勘定608百万円の減少、非支配株主持分441百万円の減少等であります。

## 連結損益計算書について

売上高は四輪販売が連結対象外となったことにより前年同期比減収となりました。（四輪販売を除く売上高合計は前年同期比増収。）営業利益及び経常利益では、品質コストの上昇等により一部原価高となったセグメントがあったものの、間接コストを中心とする固定費等の削減の取組み等により前年同期比増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益では、前年に比べ特別損失が減少しました。これらの結果、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の全てにおいて3期連続で過去最高益を更新いたしました。

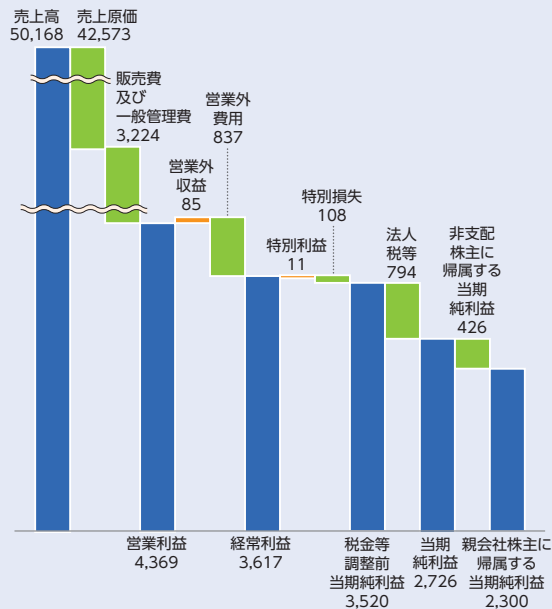
## 連結キャッシュ・フロー計算書について

現金及び現金同等物の期末残高は前連結会計年度末に比べ914百万円増加いたしました。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益3,520百万円、減価償却費5,027百万円、売上債権の減少額1,531百万円等によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4,231百万円等によるものです。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金189百万円の減少、長期借入金1,669百万円の減少等によるものです。

## 連結損益計算書(要旨)

2018年4月1日～2019年3月31日

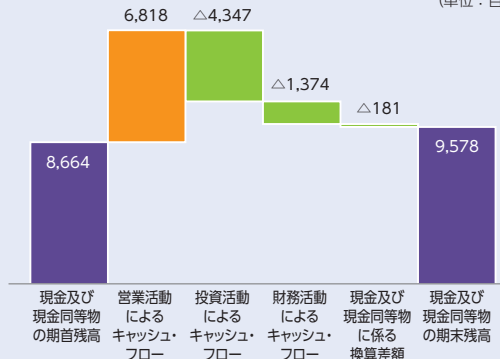
(単位:百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

2018年4月1日～2019年3月31日

(単位:百万円)



## セグメント別概況

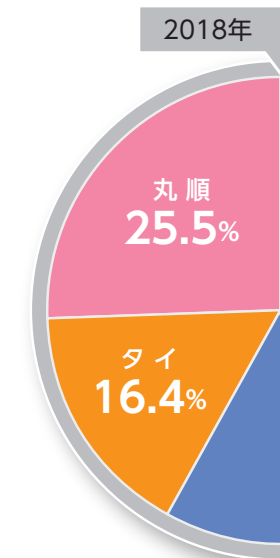
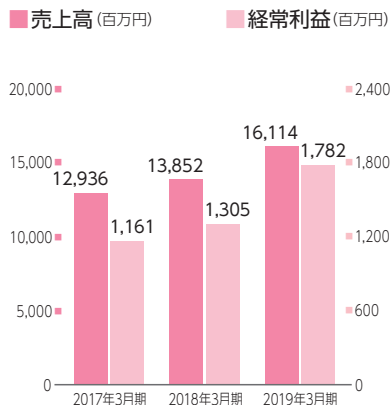
## セグメント別

丸順  
〔株式会社丸順〕

## 増収増益

丸順においては、主要客先向け自動車部品の生産が増加したほか、エンジニアリング事業における専用設備の販売増加により、売上高は増加いたしました。また、新機種立ち上がりに伴うエンジニアリング事業の品質熟成コストの増加により一部原価高となったものの、生産効率改善の継続的な取組みにより労務費等を削減したほか、海外子会社からの受取配当金増加による営業外収益の増加等により、利益は増加いたしました。

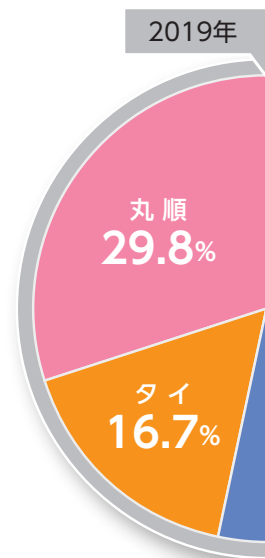
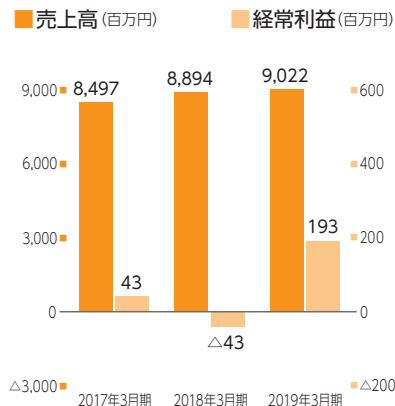
以上の結果、売上高は16,114百万円（前年同期比16.3%増）、経常利益は1,782百万円（前年同期比36.6%増）となりました。

タイ  
〔タイ・マルジュン社〕

## 増収増益

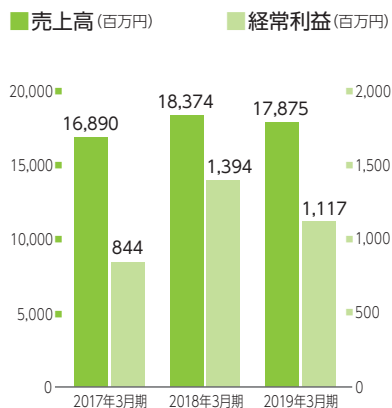
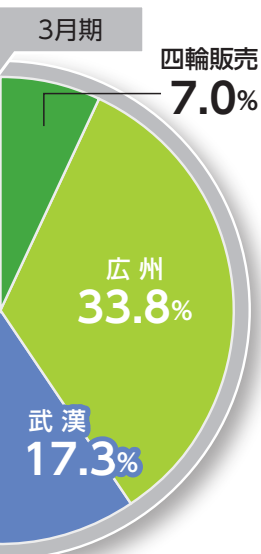
タイにおいては、主要客先向け自動車部品の生産及び専用設備の販売が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期とほぼ同水準となりました。また、量産車種終了に伴う金型投資費用の未回収分の回収及び業務改善による間接要員減により労務費を削減したほか、2011年に発生した洪水に伴う買い替え設備の償却負担の減少により、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は9,022百万円（前年同期比1.4%増）、経常利益は193百万円（前年同期は43百万円の経常損失）となりました。





## 売上高構成比率



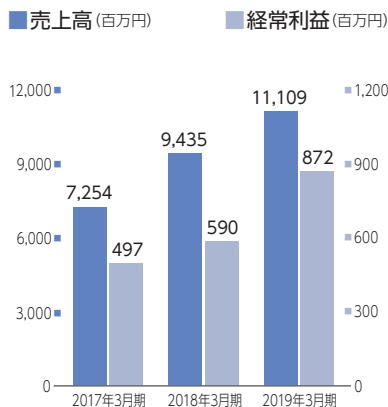
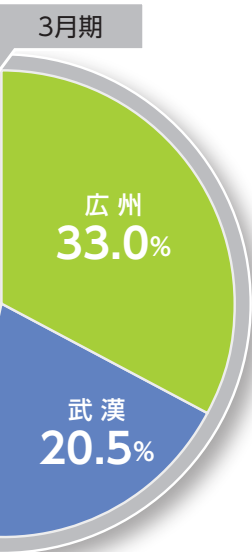
### 減収減益

広州においては、主要客先向け自動車部品の生産が減少したことにより、売上高は減少いたしました。また、スマート倉庫導入による物流改善等により労務費及び経費等の製造原価は低減したものの、新型車立ち上がりに伴う品質コストの上昇等により、利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は17,875百万円（前年同期比2.7%減）、経常利益は1,117百万円（前年同期比19.9%減）となりました。

【広州丸順汽车配件有限公司】

広州



### 増収増益

武漢においては、主要客先の増産影響により売上高は増加いたしました。また、増収により償却費及び労務費等の固定費負担が相対的に減少したほか、品質安定化の取組みにより製造原価が低減し、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は11,109百万円（前年同期比17.7%増）、経常利益は872百万円（前年同期比47.8%増）となりました。

【武漢丸順汽车配件有限公司】

武漢

## 会社の概要

### 会社概況

(2019年3月31日現在)

#### 商号

株式会社 丸順 (英文社名: MARUJUN CO., LTD.)

#### 創業

1952年7月

#### 設立

1960年1月

#### 資本金

1,950百万円

#### 事業内容

自動車用車体プレス部品の製造

自動車用精密プレス部品の製造

各種金型の設計・製作

治具・検査具の設計・製作

#### 従業員数

311名 (連結2,300名)

#### 電話番号 (代表)

0584-46-3191

### 役員

(2019年6月21日現在)

代表取締役社長	齊 藤	浩
常務取締役	青 山	秀美
常務取締役	猪 熊	篤 俊
取締役	松 井	恒 夫
取締役	棚 橋	哲 郎
取締役	露 木	好 則
取締役	上 田	勝 弘
取締役	竹 内	治 彦
常勤監査役	堀 田	政 道
監査役	馬 淵	仁
監査役	水 谷	博 之
執行役員	山 崎	英 次
執行役員	森	和 行
執行役員	小 見 山	肇

(注) 1.取締役 上田勝弘氏、取締役 竹内治彦氏は、社外取締役であります。  
2.監査役 馬淵仁氏、監査役 水谷博之氏は、社外監査役であります。

### 事業拠点

(2019年6月21日現在)

#### 本社・上石津工場

岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1

#### 浅西工場

岐阜県大垣市浅西3-22-22

#### 養老工場

岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1

#### 鈴鹿工場

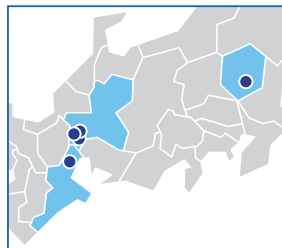
三重県鈴鹿市国府町7755

(株式会社 日本陸送内)

#### 栃木開発センター

栃木県宇都宮市ゆいの杜1-5-40

とちぎ産業交流センタービル202号室



#### 広州丸順汽車配件有限公司(子会社)

中華人民共和国広東省広州市

広州経済技術開発区永和経済区

永盛路8号



#### 武漢丸順汽車配件有限公司(子会社)

中華人民共和国湖北省武漢市

東湖新技術開発区光谷一路223号

#### タイ・マルジュン社(子会社)

NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN

NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG

KHAE, SARABURI 18230, THAILAND

#### ベステックス・MM・インディア社(出資会社)

SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA,

DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA

## 株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	11,857,200株 (自己株式235株含む)
株主数	2,488名

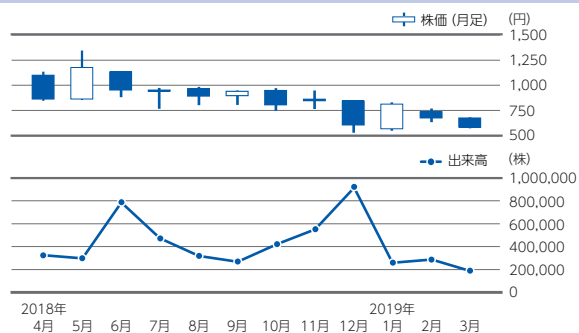
## 大株主の状況

(2019年3月31日現在)

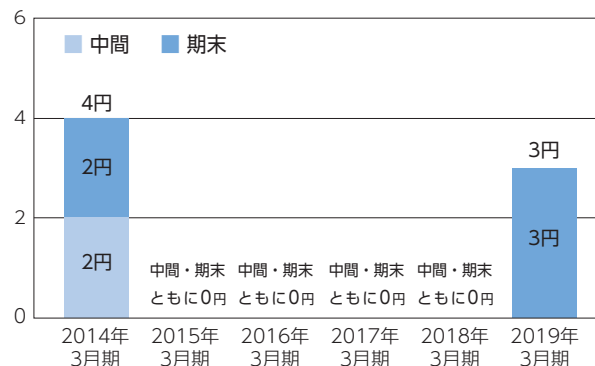
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
東プレ株式会社	2,370,700	19.99
今川 喜章	1,022,770	8.63
本田技研工業株式会社	988,950	8.34
今川 順夫	477,870	4.03
太平洋工業株式会社	463,950	3.91
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.13
今村金属株式会社	337,900	2.85
株式会社三菱UFJ銀行	325,000	2.74
株式会社大垣共立銀行	300,000	2.53
有限会社イマガワ	300,000	2.53

(注) 当社は、自己株式235株を保有しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株価チャート



## 配当金の推移

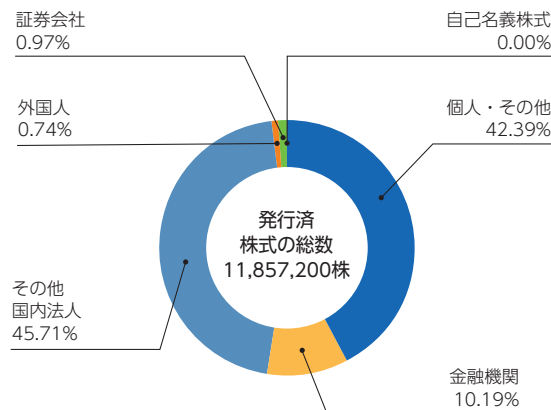


当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策の一つであると考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った成果配分を行うことを基本方針としております。

上記方針に基づき、当期における年間配当金は、1株につき3円 (中間配当は無配、期末配当は3円) を実施させていただきます。

## 株式数構成比

(2019年3月31日現在)



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## ホームページ

株主・投資家情報をはじめとするIR情報から技術の紹介等様々な会社情報を随時掲載しております。ぜひ、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.marujun.co.jp/>

## 名証IRエキスポ2019に出展

**開催日** 2019年7月19日(金)・20日(土)  
10:00~17:00

**場 所** 名古屋市中小企業振興会館  
(吹上ホール)

**参加費** 無料

当社は、7月19日(金)・20日(土)に名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)にて開催される「名証IRエキスポ2019」へ出展いたします。

当日は、投資家の皆様向けの説明会等のイベントを実施予定です。また、特設ステージでは、人気講師による講演会(無料)が開催されます。

皆様のご来場をお待ちしております。



昨年度(名証IRエキスポ2018)の当社ブースの様子です。